

## ごあいさつ

広島県安芸郡熊野町

町長 三村 裕史



「第48回ふれあい書道展」が、多くの書道愛好家の御理解と御協力をいただき開催できましたことに対し、厚くお礼を申し上げます。

広島県熊野町は、伝統的工芸品「熊野筆」で知られる「筆の都」として、長年その文化を継承し、栄えてまいりました。現在は書道用の筆はもちろんのこと、化粧筆や画筆においても高い技術と生産量を誇っております。

本町では、春の「筆の日」、秋の「筆まつり」など、人々が筆を身近に感じられる取り組みを行ってまいりました。学校教育においても、低学年から毛筆に親しませる独自の教育として、小学1年生から毛筆を使用した書写を授業に取り入れるほか、伝統工芸士による筆づくり体験指導を行うなど、筆文化を未来につなぐ、地域の特色を生かした試みを実施しています。

さて、今回で48回を迎えたふれあい書道展は、平成11年から続く全国の書道愛好家を対象とした公募展となっています。今回は全国47都道府県の1,579団体、最年少は1歳から最高齢は107歳までの幅広い書道愛好家の方々からのご応募をいただきました。また、国内のみならず海外からも108点の応募をいただき、応募数は過去最多の20,762点となっております。このことは筆の都熊野町として感謝すべきことで、書に親しみ、筆を持つ喜びを多くの方に味わっていただくことで、筆文化の振興と交流の深化を実感しています。

このふれあい書道展では、厳正かつ公正な審査によって、賞が決定しています。書を志す方はもちろんのこと、少しでも書道に興味のある方、腕試しをしてみたいという方も是非ご参加いただき、書を楽しんでいただきたいと思います。

結びに、この書道展を開催するにあたり、広島県、広島県教育委員会その他関係諸団体の皆様から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝の意を表し、御挨拶といたします。

## 第48回ふれあい書道展について

全国書画展覧会運営委員会

委員長 時光良造



全国一の筆の生産量を誇る「筆の都」熊野町において、書道愛好家の皆様方に支えられて「第48回ふれあい書道展」を開催できましたことに対し、深く感謝を申し上げます。

平成11年の開催以来、今回は47都道府県と海外の1,579団体から過去最高の20,762点もの力作が届きました。本書道展にふさわしく、1歳から107歳の方まで、実に幅広い年齢層の方からご出品いただき、生涯に渡って書に親しんでいる様子を伺うことができました。また、今回も台湾から多くの作品が届き、筆のつながりを持つ国際色ある書道展となりました。

本書道展は、小・中学生は書写作品を推奨し、いわゆる書の流派などにとらわれない公正公平な審査を高く評価していただいています。また、作品の発表記念として出品者全員に作品画像入りの賞状を贈呈しています。

最終審査は審査長として、今回も元文部科学省教科調査官で東京学芸大学名誉教授の加藤祐司先生、前文部科学省教科調査官で東京学芸大学教授の加藤泰弘先生にご依頼しまして、特別賞40点の作品を厳正に、丁寧に選んでいただきました。

「特別賞」「筆都大賞」「ふれあい賞」の優秀作品は、熊野町民会館のロビーにおいて、3月14日から3月18日までの5日間、展覧会を開催いたしました。

日本の伝統文化である「書道」はユネスコ無形文化遺産の提案が決定され、書道文化の更なる発展が期待されています。普段の生活の中で、筆を持ち、書を通じてたくさんの仲間との交流により、心豊かで充実した人生を送れるようにと願っております。次回も皆様方から力作をお寄せくださいますようよろしくお願い申し上げます。

終わりに、この書道展の運営及び開催に当たり、広島県、広島県教育委員会をはじめご後援、ご協力をいただきました関係各団体の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。